

第91回ALCE例会

コンヴィヴィアリティ×ことば

話題提供者: 大平幸 (立命館アジア太平洋大学)
家根橋伸子 (東亜大学)
古屋憲章 (山梨学院大学)

6月24日(土) 19:00~20:30

テーマ「コン_ヴィヴィアリティと言語教育」

イリイチ『コンヴィヴィアリティのための道具』

自立共生、集团的創造、共創

人間がことばや、テクノロジー、制度やルールといった<道具>に従うのではなく、他者や環境との調和を保ちつつ、本来的に持つ力によって自由で創造的な活動ができる社会のあり方

イリイチの問題意識

1973年 産業化を経て、さまざまな社会制度が確立した時代

経済的成長を最優先の目的とし、生産性や効率性を追い求める社会へ

社会制度の整備拡充、科学技術の発展により、より便利な社会に

社会は豊かになったのか？

生活をよりよくするための<道具> (=制度やテクノロジー)に、人の生き方が規定されているのは？

<道具>

たとえば…

学校制度、医療制度、交通システム

紙とペン、パソコン

カリキュラム、シラバス、評価表

私たちの生活を便利にしてくれる道具

<道具> (=制度やテクノロジー) が、人の生き方や行為を規定するものになっていないか？

<道具>としての評価表

評価表 = 人間の「能力」を可視化するためのテクノロジー

ミュラー (2019)

19世紀 資本主義が台頭をはじめたイギリスにおける「能力給」の導入

工場などの作業を分業化し、標準化し、時間単位で作業を管理することにより、効率化を進め、生産性の向上を目指す

1910年 アメリカ 工学者テイラーが提唱した「科学的管理法」により加速

1910年代のアメリカの学校組織の効率化運動

生徒や教師、学校の学習・教育の成果を測定し、社会への貢献度の証拠を提供するための<道具>として流用

私たちと〈道具〉

評価表：

社会が求める知識や技能を持った人材を生み出すための〈道具〉になっていないか？

社会における経済的活動に貢献できる人とそうではない人を区別するための〈道具〉になっていないか？

コンヴィヴィアリティの〈道具〉という概念が私たちに要請すること：

〈道具〉の存在や、その〈道具〉を使用する私たちの行為をもう一度意識してみること

〈道具〉との関係性を見直し、その関係性を組み替えることで、変わらない、変えられないと思っていた何かを変えること

コンヴィヴィアリティ×ことば

「言葉の再発見」=社会の回復のための鍵

- ・今、私たちに何ができるのか？
- ・ことばを通じて、どのように社会とつながり、現在の状況を変えていけるのか。